2章

実践編

2章 実践編

2.1 コースをデザインする

1 章では、JF スタンダードの考え方を説明しました。2 章では、それらの考え方を活用して、コースをデザインする手順について説明します。図 2-1 は、コースデザインの全体像を示したものです。

図 2-1　コースデザインの全体像

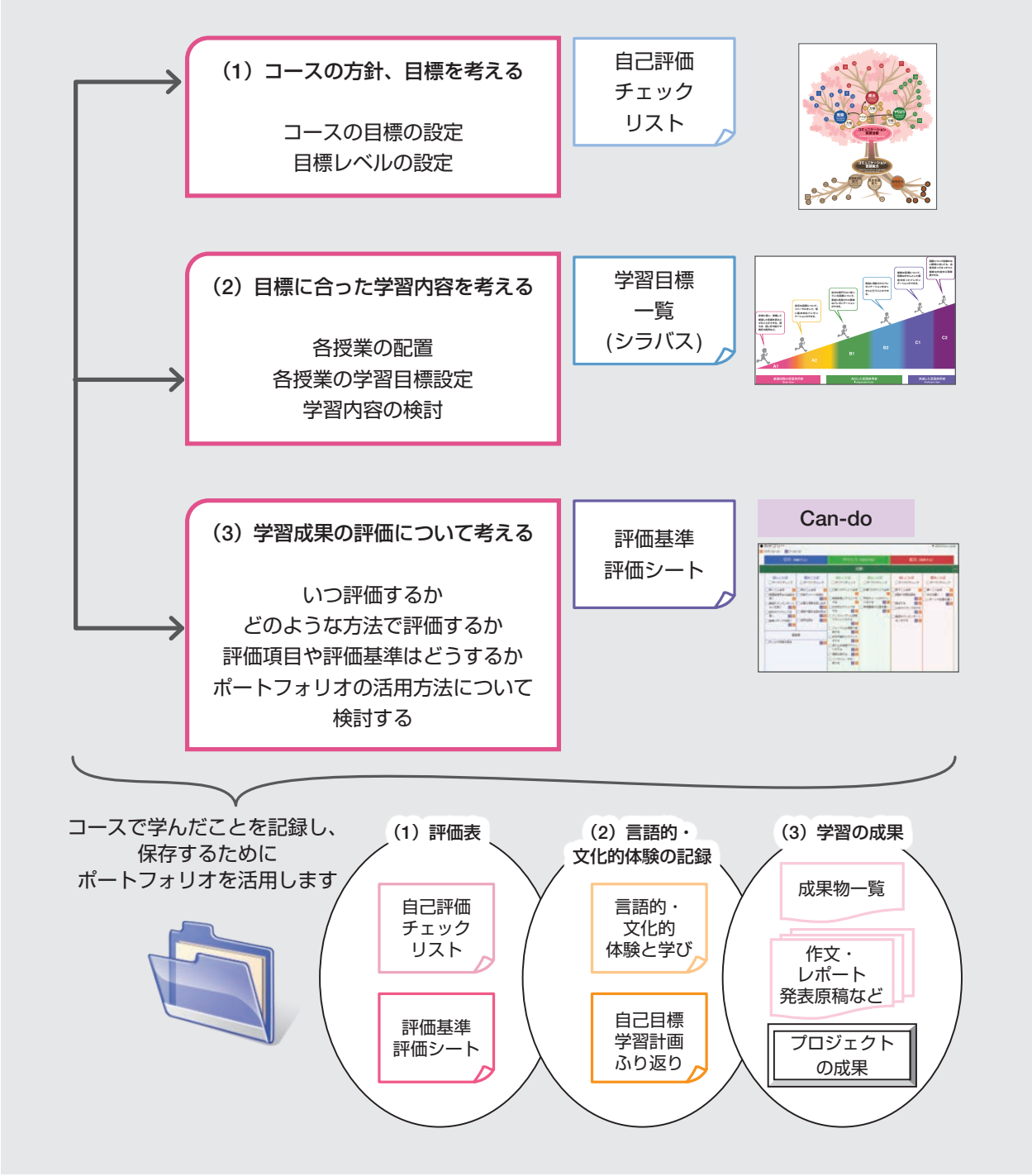


図 2-1 で示したように、コースデザインは 3 つの段階に分けることができます。

（1） コースの方針、目標を考える

（2） 目標に合った学習内容を考える

（3） 学習成果の評価について考える

これら 3 つの内容は、相互に関連しています。図 2-1 の矢印で示しているように、前の段階で検討した内容をふり返って、関連性があるかどうかを確認しながらコースデザインを進めます。目標と学習内容は合っているか、評価の観点や評価方法が学習成果を評価するのに適切か、目標と評価につながりがあるかどうかなどを考えながらコースデザインをすることによって、目標から評価までが一貫性のあるものとなります。

実際の日本語コースをデザインする時に、「JF スタンダードの木」、Can-do、ポートフォリオをどのように使うのでしょうか。次のような具体的なコースを想定して、詳しく見ていきましょう。

A 国　○△□日本語学校　成人を対象とした日本語コース

学習者に関する情報

- 学習者
  教師、ビジネスマン、大学生など 12 ～ 20 名
  日本を訪れた経験のある人もない人もいるが、ある人も 2 週間から 1 ヶ月の短い期間である。
- 学習歴
  日本語学習経験がある。この日本語学校で勉強していた人、以前にほかの学校で勉強していた人、自分で勉強していた人などがいる。
  日本人とごく基本的なやりとりはなんとかできる。
- 学習目的／動機
  - 日本の社会や文化について理解を深めたい。
  - 仕事などで出会う日本人と日本語でコミュニケーションができるようになりたい。
  - 身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について、詳しく、わかりやすく話せるようになりたい。

カリキュラムに関する情報

- 学習時間
  総学習時間：42 時間（3 時間× 14 回）
  ただし、初回は「オリエンテーション」、最終回は「まとめ」の時間とするため、授業は、3 時間 × 12 回となる。
- 使用教材
  特に教材は決まっていない。教師が独自に作成した教材を使用する。

（1）コースの方針、目標を考える

まず、コースの方針や目標を決めます。日本語に対する社会的なニーズや学習者の学習目的を念頭に、「JF スタンダードの木」のどの部分に重点を置くのかを考えます。たとえば、「JF スタンダードの木」の枝で示された言語活動の中の産出に力を入れる、根で示された語彙や文法などの言語能力の育成に力を入れるなど、教育現場の現状や特色、学習者の学習目的などに合わせてコースの方針や目標を検討しましょう。

次に、「全体的な尺度」（p.13）や**「自己評価表」**参考資料 1 を見て、学習者の現在のレベルを確認し、コースで目標とするレベルも設定します。

■「A 国　○△□日本語学校　成人を対象とした日本語コース」の場合…

「全体的な尺度」や「自己評価表」を見て、このコースの学習者の現時点のレベルは A2 程度であると想定し、目標レベルを B1 と考えました。そして、学習者やカリキュラムに関する情報を考慮して、コースの目標として以下の 2 点を設定しました。

コースの目標

- 日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人が A 国についてどのような知識や印象を持っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
- 仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にもふれながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

「ある程度の長さで、わかりやすく話す」というのは、JF スタンダードでは、やりとり（話す）ではなく、産出（話す）と捉えます。そこで、B1 レベルの産出（話す）の Can-do や、B1 レベルで使用できそうな市販教材の学習内容を見て、「ある程度の長さで、わかりやすく話すこと」を達成するために必要な項目として、「手順関係を述べる、描写する、対比する」を選びました。

（2）目標に合った学習内容を考える

ここでは、コースの目標を念頭に置き、具体的にどのような内容を取り上げ、コースの中にどのような順番で配置し、各授業で何を目標にどのような内容を学習するかを考えます。このときに、「みんなの Can-do サイト」にある Can-do が参考になります。特に JF Can-do は日本語の使用場面での具体的な言語活動を例示したものなので、目標がイメージしやすいでしょう。

授業の具体的な学習目標が決まったら、まず目標の実現例として、談話モデル（会話と独話を含む）をイメージします。談話モデルは 1 つだけではなく、目標とするレベルで複数考えるとよいでしょう。学習者が談話モデルを参考にして、自分で談話を組み立てられるようになることが目標です。

次に、目標レベルの談話モデルにもとづいて、目標達成に必要となる語彙・表現・文型などを考えます。「みんなの Can-do サイト」の中の能力 Can-do や、既存の教材を参考に、語彙・表現・文型などの言語項目を考えます。そして、聴解や読解などのインプット素材を集めながら、「インプット素材・言語項目・学習活動」の組み合わせや順番を決めていきます。

このようにして、学習内容が考えられます。この作業過程で常に、目標と学習内容のつながりや、学習内容どうしのつながり、評価とのつながりを再検討します。

Can-do による学習目標から、語彙・表現・文型を考えるには、JF スタンダードに準拠して作成した『まるごと　日本のことばと文化』（A1、A2、B1 レベル）が参考になるでしょう。

http://marugoto.org

■「A 国　○△□日本語学校　成人を対象とした日本語コース」の場合…

1. 各授業の配置を考える

このコースでは、コース目標や学習目的などを考慮して、JF Can-do のトピックの中から、「自分と家族」「仕事と職業」「買い物」「旅行と交通」「食生活」「言語と文化」の 6 つのトピックを取り上げ、14 回の授業で扱います。各トピックの授業は、3 時間× 2 回です。6 つのトピックのうち、「自分と家族」はウォーミングアップとして行います。「仕事と職業」のトピックでは「手順を述べる」、「買い物」「旅行と交通」では「描写する」、「食生活」「言語と文化」では「対比する」を学習項目として扱うことにします。

表 2-1　A 国○△□日本語学校のコースの学習内容一覧

【コースの目標】 ■日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を思っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
■仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にもふれながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

【目標とするレベル】 B1

回	時間	トピック	学習目標	学習活動	語彙・文型	社会文化的知識
1	3時間	（オリエンテーション）				
2	3時間	自分と家族	新しく知り合った日本人に、自分自身の長所や短所について、ある程度詳しく話すことができる。	…	…	…
3	3時間					
4	3時間	仕事と職業	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。	・社員が新しいスタッフに自分たちの仕事内容を説明しているビデオをいくつか見たり、そのスクリプトを読んだりして、必要な語彙や発表のためのフォーマット（談話構成）を学習する。 ・自分の発表の全体構成を考える。 ・新しいスタッフに自分たちの仕事内容を説明することを想定して発表原稿を書く。 ・ペアになって仕事内容を相手に説明する。 ・グループ内で仕事内容について説明する。（録音する） ・ふり返り	・会議、出張、営業、貿易会社、担当します… ・手順を表わす表現（まず、～てから、～場合、…） ・対比を表わす表現（Aは～ですが、Bは～です。…）	・日本の会社文化 ・日本人の労働観
5	3時間					
6	3時間	買い物	日本人と一緒に買い物に出かけたとき、自国で人気のある特産品やファッションなどについて、日本の特産品やファッションとの違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく紹介することができる。	…	…	…
7	3時間					
8	3時間	旅行と交通	日本人旅行者に、有名な観光地について、日本人が持っている情報をふまえて、ある程度詳しく説明することができる。	…	…	…
9	3時間					
10	3時間	食生活	日本人と食事をしているとき、自国と日本の食生活（マナーや食べ物など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。	…	…	…
11	3時間					
12	3時間	言語と文化	日本人を自宅に招待したとき、自国と日本の生活習慣（結婚式や年中行事など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。	…	…	…
13	3時間					
14	3時間	（まとめ）				

では、「仕事と職業」のトピックを例に、学習目標の設定と学習内容の検討をどのように行ったのか見ていきましょう。

2. 各授業の学習目標を設定する

コースの目標と、「手順を述べる」という学習項目をふまえ、「仕事と職業」のトピックの学習目標を以下のように設定しました。

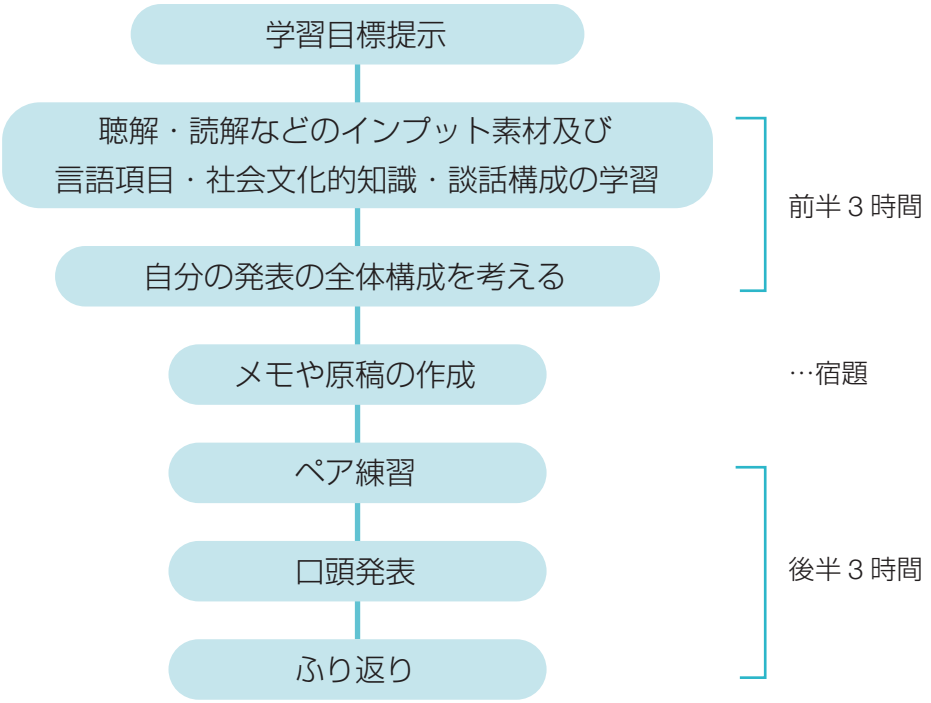
学習目標

新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。

なお、Can-do を使った学習目標一覧の作成方法は 2.2 で詳しく説明します。

3. 学習内容を検討する

トピック「仕事と職業」の学習の最後に、学習者に、「新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明する」という場面設定で、口頭発表させることにします。口頭発表の具体的な談話モデルを B1 レベルでイメージし、それを達成するために必要な学習内容を決定します。3 時間× 2 回の合計 6 時間の授業の流れを以下のように考えます。



＜授業の流れ・前半 3 時間＞

1） 背景知識の活性化をかねて、「ふり返りシート」（P46、図 2-3）に、日本人の仕事のし方や、仕事に対する考え方などについて、知っていることや興味のあることを記入する。
2） ビデオを視聴する。（日本人及び日本人と仕事している A 国の人が、自分の仕事の内容や仕事に対する考え方などについて日本語で話している場面）
3） ビデオの内容が理解できたかどうかを確認する（タスクシートに学習者が記入した後で、ペアであっているか確認したり、クラス全体で確認したりする）。
4） ビデオのスクリプトを見ながら、仕事に関する語彙や表現、手順や対比などの文型を学習する。
5） 仕事に対する考え方の違いなどを、母語や簡単な日本語で話し合う。A 国の会社で働くときに日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本との相違点・共通点などを整理する。
6） 発表のために語彙、表現、談話構成などを学習する。
7） 自分の発表の全体構成を考え、発表用のメモや原稿を書く。（時間内に終わらなければ、宿題にする）

＜授業の流れ・後半 3 時間＞

8） 発表用のメモや原稿をもとに、ペアになって、お互いに自分の仕事内容を相手に説明する。相手の発表を聞いて、質問する。
9） 質問を踏まえて、発表用のメモや原稿を修正する。内容を補ったり、語彙や表現を言い換えたり、文のつながりをよくする。修正したら、メモや原稿をときどき見ながら話す練習をする。
10） グループ内で仕事内容について説明する。聞いている人は質問をする。（発表は録音し、あとで自己評価等に使用する）
11） トピックの学習を通して、気づいたことや考えたことなどを「ふり返りシート」に記入し、グループで共有する。

（3）学習成果の評価について考える

学習成果をいつ、どのように評価するかを考えましょう。学習目標、学習内容、学習成果の評価の 3 つは相互に関連していますから、評価を考える過程で、（2）に戻って学習内容を変更する場合もあります。

■「A 国　○△□日本語学校　成人を対象とした日本語コース」の場合…

このコースの学習成果の評価を以下のように設定しました。

学習成果の評価

① 学習者はコースの開始時と終了時に「自己評価チェックリスト」を使った自己評価を行う。
② 授業の中で、3 つのトピック（旅行と交通、仕事と職業、言語と文化）で口頭発表を行い、「評価基準」と「評価シート」を使って評価する。その他の 3 つのトピック（自分と家族、買い物、食生活）は、「ふり返りシート」への記入のみとする。
③ コースの最終評価として、2 つのロールプレイによる口頭テストを行い、コース目標である産出（話す）の能力を測る。「評価基準」は、授業で行った口頭発表に利用したものを使用する。
④ 学習者は学習を通じて、日本人の考え方や習慣・文化、自分自身の考え方や自国の習慣・文化について、新しく気づいたことや考えたことなどをトピックごとに「ふり返りシート」に書く。
⑤ ポートフォリオを活用して学習成果の評価を行う。

＊「自己評価チェックリスト」と口頭発表の「評価基準」「評価シート」を、ポートフォリオの【(1) 評価表】に入れる。「ふり返りシート」を、ポートフォリオの【(2) 言語的・文化的体験の記録】に入れる。発表原稿や提示資料、録音した音声などを、ポートフォリオの【(3) 学習の成果】に入れる。

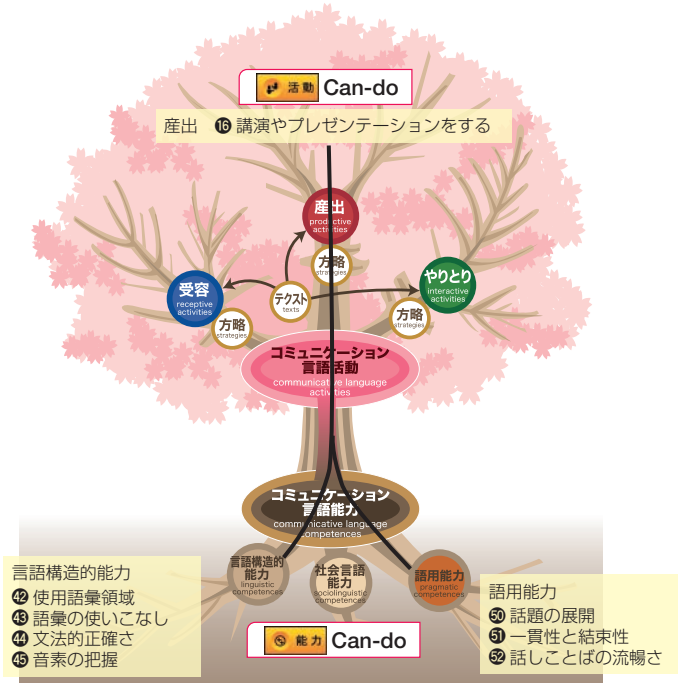
①「自己評価チェックリスト」による自己評価

コースの開始時と終了時に「自己評価チェックリスト」使って、学習者が自己評価を行います。リストの作成方法は「2.2 コースデザインに Can-do を使う」で扱います。

②トピックごとの口頭発表の評価

6 つのトピックのうち、「仕事と職業」「旅行と交通」「言語と文化」の 3 つのトピックでは、口頭発表を学習者に課し、それを評価の対象にします。評価の観点を設定するため、「JF スタンダードの木」を使います。まず、学習目標や学習活動として扱う**言語活動のカテゴリー**を確認します。次に、その言語活動を支える**言語能力のカテゴリー**を考えます。図 2-2 は、B1 レベルの産出（話す）の言語活動のうち、授業で扱う言語活動と、その言語活動の達成に必要なものとして選んだ言語能力のカテゴリーを示したものです。「評価シート」の作成方法は「2.2 コースデザインに Can-do を使う」で扱います。

図 2-2　産出（話す）の評価の観点として選んだカテゴリー



③コースの最終評価（口頭テスト）

コースの最終評価として、教師と学習者が 1 対 1 で口頭テストを行います。「手順を述べる」ことができるかどうかを見るために、仕事の職業の場面を設定したロールプレイを 1 つと、「描写する、対比する」ことができるかどうかを見るために、「買い物」「旅行と交通」「食生活」「言語と文化」の中から、ロールプレイを 1 つ行います。2 つのロールプレイで 10 分ぐらいの時間が目安になるでしょう。

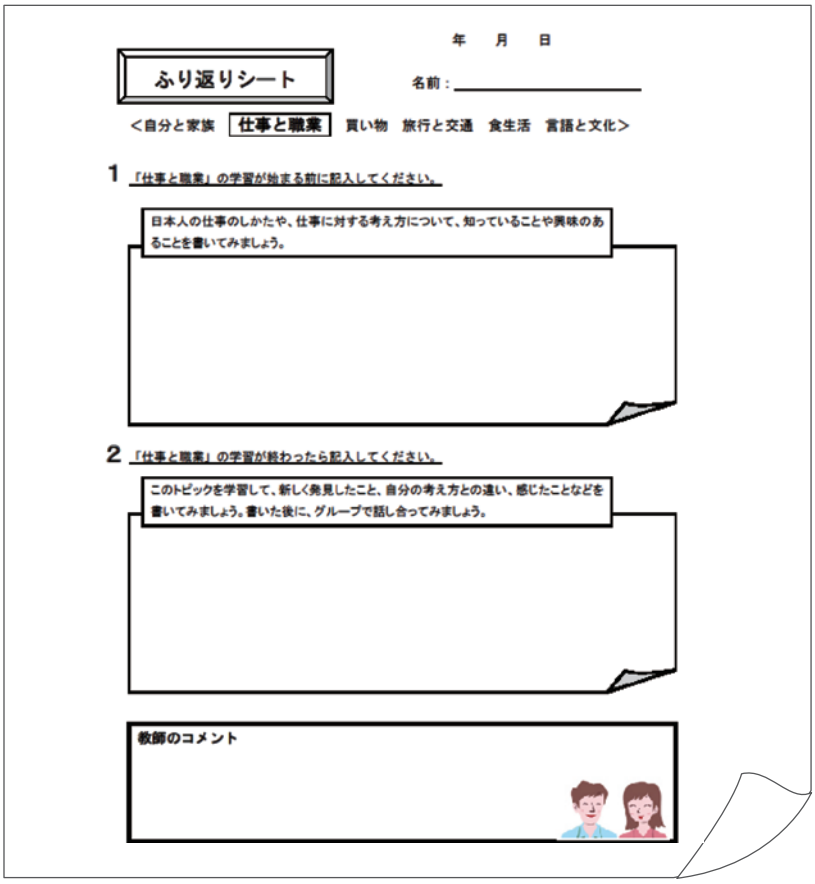
教師はロールカードを用意し、会話テストでは日本人役になります。学習者は、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく、まとまった内容を独話の形で説明することが目標です。テストは録音し、②で作成した「評価シート」を使って、教師による評価と、学習者による自己評価を行います。

学習者にとっては、授業で口頭発表をした「旅行と交通」「言語と文化」のトピックはやさしく、「買い物」と「食生活」はやや難しく感じられるでしょう。どちらにするかは、学習者のレベルに応じて教師が選んでも、学習者が自分に必要なトピックを考えさせた上で選んでもいいでしょう。

④ふり返りシート

「日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がＡ国についてどのような知識や印象を持っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる」というコース目標の成果を確認するために、学習者は毎回、図 2-3 の「ふり返りシート」に記入しました。そのあとで、ペアやグループで共有しました。

図 2-3　ふり返りシート


年　月　日

ふり返りシート

名前：＿＿＿＿＿＿＿＿

＜自分と家族　仕事と職業　買い物　旅行と交通　食生活　言語と文化＞

1 「仕事と職業」の学習が始まる前に記入してください。

日本人の仕事のしかたや、仕事に対する考え方について、知っていることや興味のあることを書いてみましょう。

2 「仕事と職業」の学習が終わったら記入してください。

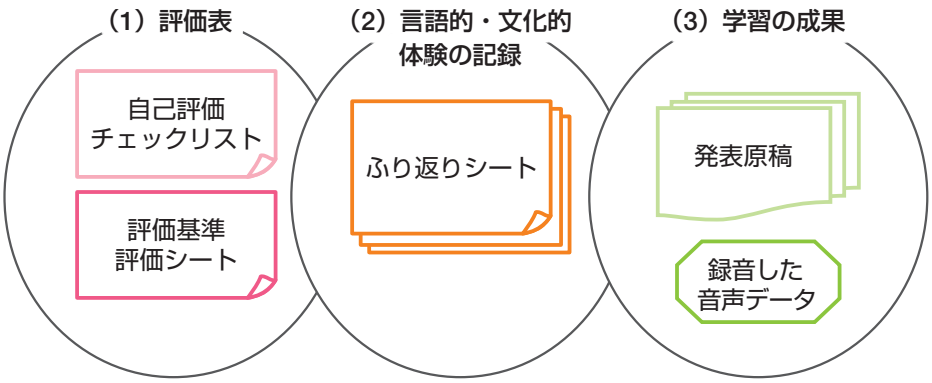
このトピックを学習して、新しく発見したこと、自分の考え方との違い、感じたことなどを書いてみましょう。書いた後に、グループで話し合ってみましょう。

教師のコメント

⑤ポートフォリオによる評価

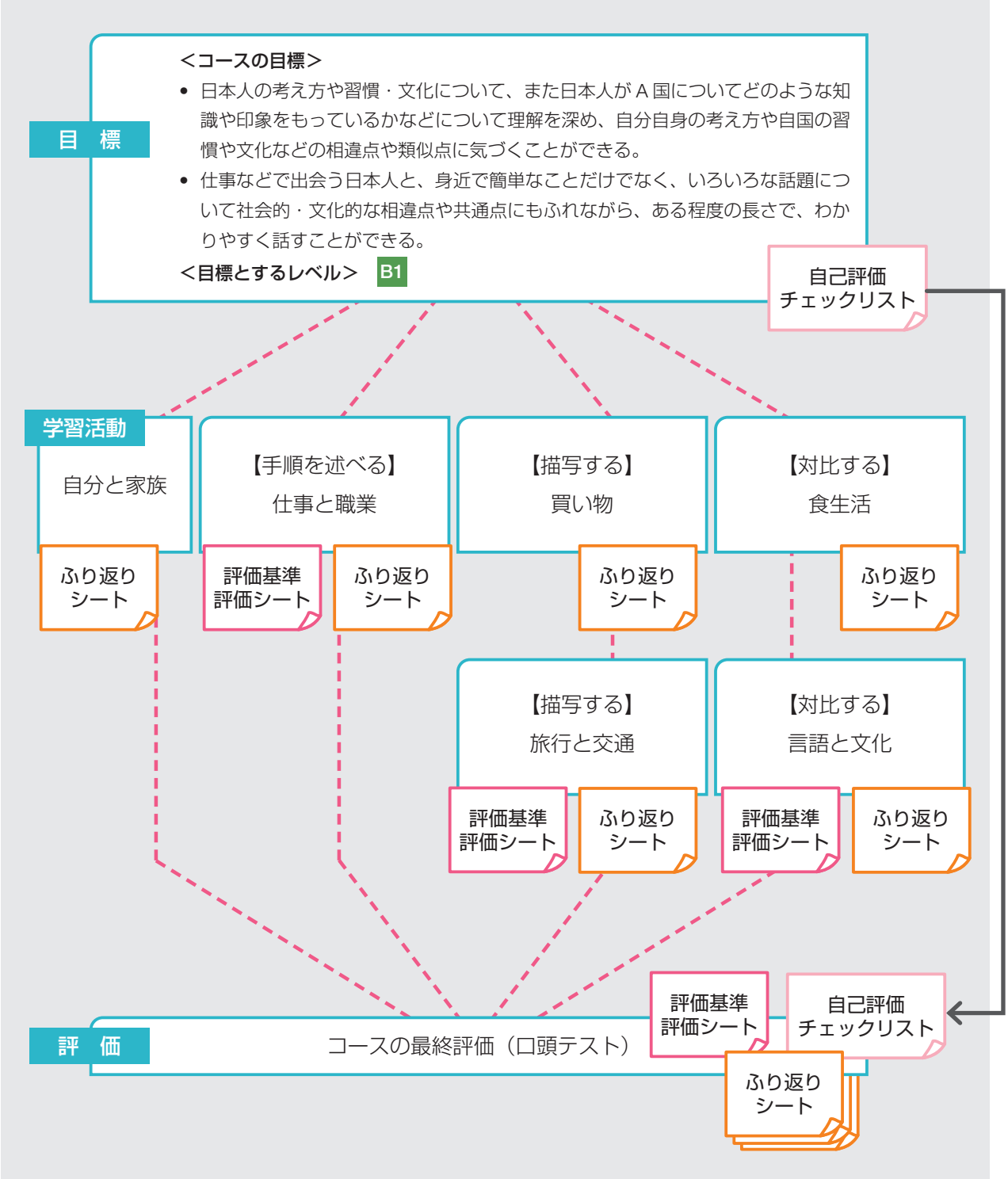
「自己評価チェックリスト、評価基準、評価シート、ふり返りシート、および発表原稿や口頭発表の録音などを整理したもの」をポートフォリオに保管します。保管のし方は、次の図 2-4 のように構成要素ごとにファイルしてもいいですし、トピックごとに関連するシートをまとめるのもよいでしょう。

図 2-4　このコースのポートフォリオの構成



以上、このコースの評価のし方をまとめると図 2-5 になります。

図 2-5　A 国○△□日本語学校のコースの評価の全体像



〔参考 1：評価の観点〕

B1 レベルのやりとり（話す）であれば、㊿ **話題の展開**、㊿① **一貫性と結束性**のかわりに、㊼ **社会言語的な適切さ**や ㊾ **発言権**などを評価の観点に含めるとよいでしょう。

図 2-6　やりとり（話す）の評価の観点として選んだカテゴリー

〔参考 2：やりとり（話す）の評価方法〕

基金が開発した JF スタンダード準拠の「ロールプレイテスト」が参考になります。このテストは、JF Can-do を元にしたロールプレイを通して「口頭のやりとり」能力を測ることができます。学習者の能力を JF スタンダードのレベル基準を使って判定でき、各現場や学習者に合わせてカスタマイズができる設計になっています。

ロールカード

あなたの町に来た日本人の友だちが、食料品を買いに行きたいと言っています。あなたが知っているお店を紹介し、どんな店か、なぜその店がいいのかなど、詳しく説明してください。

Your Japanese friend who is visiting your home town says that they would like to go and buy some groceries. Introduce a shop that you know, including details about what kind of shop it is, why you think that shop is a good choice etc.

2.2 コースデザインに Can-do を使う

ではここから、A 国○△□日本語学校のコースを例として、コースデザインの中での「JF スタンダードの木」や Can-do の次のような活用方法について紹介します。

（1）「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」を作る

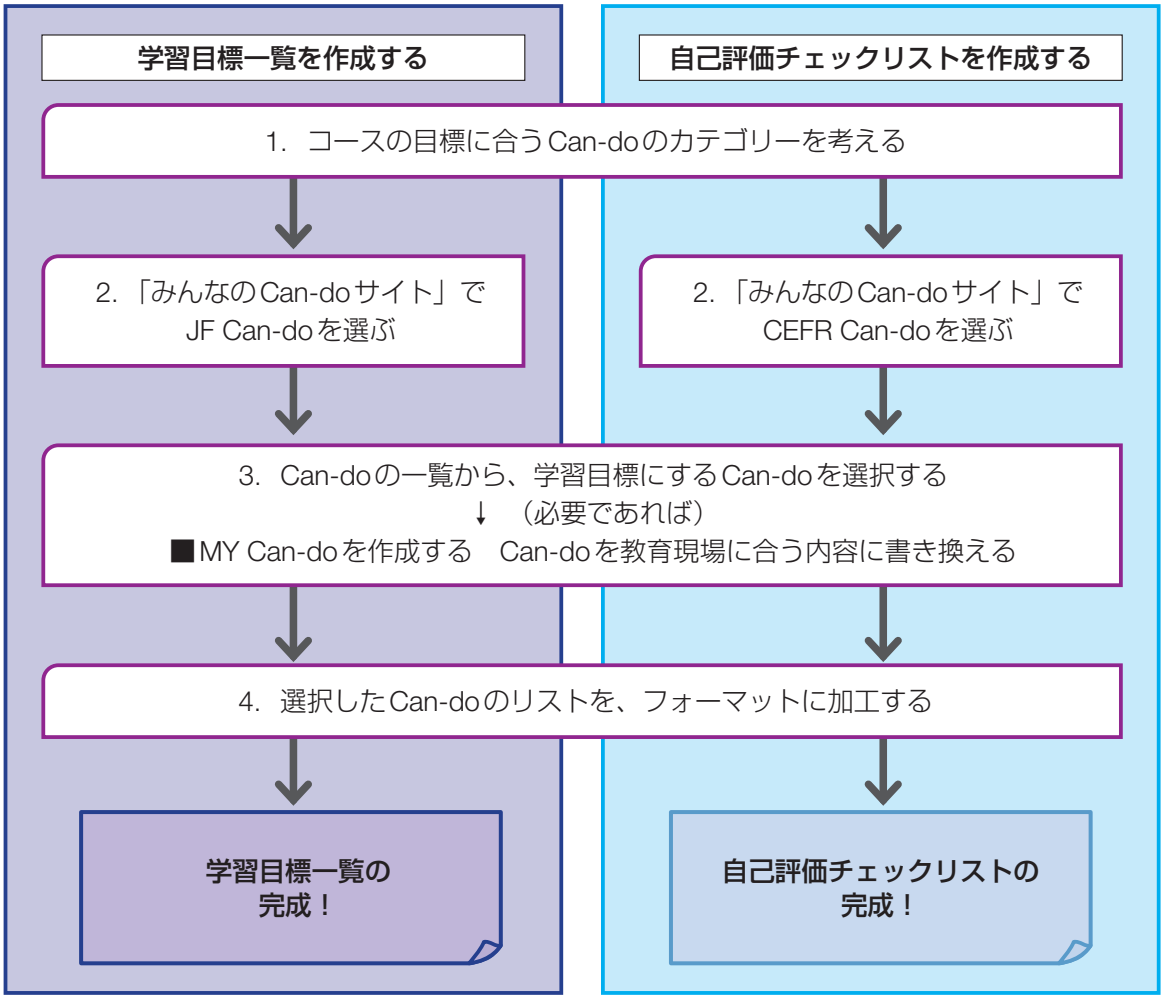
（2）話す力を測るための「評価基準」と「評価シート」を作る

（1）「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」を作る

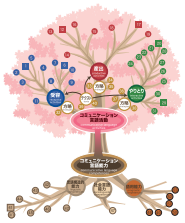
Can-do を使って、「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」を作成することにより、学習内容や評価内容がイメージしやすくなり、教師と学習者で共有しやすくなります。学習者は目標を意識化でき、学習の動機付けに役立ちます。JF スタンダードの Can-do は、共通の尺度にもとづいているため、他の機関や他の言語との比較、共有もできるようになります。

学習目標一覧と自己評価チェックリストを作成する全体の流れは、図 2-7 のようになります。

図 2-7 「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」作成の流れ



■「A 国　○△□日本語学校　成人を対象とした日本語コース」
—学習目標一覧を作成する—



1. コースの目標に合う Can-do のカテゴリーを考える

「JF スタンダードの木」を見ます。このコースの目標は、人にまとまった話を語ることなので、活動 Can-do の中から、産出（話す）を選び、その中から **⑬ 経験や物語を語る**と、**⑯ 講演やプレゼンテーションをする**のカテゴリーを選びます。

2.「みんなの Can-do サイト」で、該当するトピック、レベル、カテゴリーの JF Can-do を選ぶ

⑬ 経験や物語を語ると **⑯ 講演やプレゼンテーションをする**のカテゴリーの Can-do のうち、コースの目標レベルである B1 で、このコースで取り上げる 6 つのトピック（「自分と家族」、「仕事と職業」、「買い物」、「旅行と交通」、「食生活」、「言語と文化」）の Can-do を選択します。表 2-2 は、「みんなの Can-do サイト」で選択した Can-do（トピックつき）をエクセルファイルに出力した一覧です。

表 2-2　サイトから出力した Can-do（トピックつき）の一覧

種別	レベル	種類	言語活動	カテゴリー	Can-do 本文（日本語）	トピック
JF	B1	活動	産出	経験や物語を語る	来客に自分の会社の工場などを案内するとき、機械の機能や生産過程などを、ある程度詳しく紹介することができる。	仕事と職業
JF	B1	活動	産出	講演やプレゼンテーションをする	電気屋などの職場で、あらかじめ準備してあれば、客に電子辞書などの商品について、ある程度詳しく紹介し、想定した質問に答えることができる。	仕事と職業
JF	B1	活動	産出	講演やプレゼンテーションをする	ガイドとして有名な観光地などを案内するとき、あらかじめ準備してあれば、名所や名物などを、ある程度詳しく紹介することができる。	仕事と職業
JF	B1	活動	産出	経験や物語を語る	お土産を渡しながら、休み中に行った場所や出来事などについて、まとまりのある話を友人に語ることができる。	旅行と交通
JF	B1	活動	産出	経験や物語を語る	電子辞書など、新しく買い替えた物について、前に持っていた物と比べながら、ある程度詳しく友人に話すことができる。	買い物
JF	B1	活動	産出	経験や物語を語る	自分の得意な料理の作り方などを順序だてて友人に説明することができる。	食生活
JF	B1	活動	産出	経験や物語を語る	異文化体験の出来事や感想について、まとまりのある話を友人に語ることができる。	言語と文化
JF	B1	活動	産出	講演やプレゼンテーションをする	弁論大会などで、あらかじめ準備してあれば、異文化体験の出来事や感想などを含んだまとまりのある簡単なスピーチをすることができる。	言語と文化
JF	B1	活動	産出	講演やプレゼンテーションをする	自分の国について学ぶ集まりで、あらかじめ準備してあれば、自分の国や町の様子などについて、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる。	言語と文化

3. Can-do の一覧から、実際に学習目標にする Can-do を選択する

表 2-2 で選択した Can-do の一覧の中から、授業で目標とする Can-do はどれかを考え、必要なものを選びます。選んだ Can-do の記述内容が難しい場合は、学習者の母語に翻訳したり、内容の意図が伝わるよう注意して、簡単な日本語に書きかえたりしましょう。

一覧の中に、目標に合う Can-do が無いときは、これらを参考にしながら、MY Can-do を作成する必要があります。

● MY Can-do を作成する

選択した Can-do の一覧を参考にして、具体例や B1 レベルの記述の特徴を入れて、必要な場合は Can-do のトピックを変えたりしながら、次のような MY Can-do を作成しました。

作成した MY Can-do

「自分と家族」

新しく知り合った日本人に、自分自身の長所や短所について、ある程度詳しく話すことができる。

「仕事と職業」

新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。

「買い物」

日本人と一緒に買い物に出かけたとき、自国で人気のある特産品やファッションなどについて、日本の特産品やファッションとの違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく紹介することができる。

「旅行と交通」

日本人旅行者に、有名な観光地について、日本人が持っている情報をふまえて、ある程度詳しく説明することができる。

「食生活」

日本人と食事をしているとき、自国と日本の食生活（マナーや食べ物など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。

「言語と文化」

日本人を自宅に招待したとき、自国と日本の生活習慣（結婚式や年中行事など）の違いや共通点について、例をあげてある程度詳しく説明することができる。

4. 選択した Can-do の一覧を学習目標一覧のフォーマットに加工する

Can-do の一覧を、目標一覧に加工します。学習者と共有するために、目標一覧には、たとえば以下の項目を記入する欄が必要でしょう。

（例）
- コースの名前や期間
- 評価を行うトピック

次の図 2-8 は、学習目標一覧の例です。

図 2-8　学習目標一覧の例

学習目標

○△□**日本語学校**

【コースの目標】
■日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を思っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
■仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にもふれながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

名前（　　）

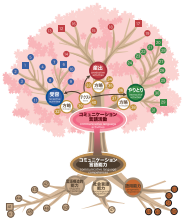
回	トピック	学習目標
1	オリエンテーション	
2 3	自分と家族	新しく知り合った日本人に、自分自身の長所や短所について、ある程度詳しく話すことができる。
4 5	仕事と職業 【評価①】	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。
6 7	買い物	日本人と一緒に買い物に出かけたとき、自国で人気のある特産品やファッションなどについて、日本の特産品やファッションとの違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく紹介することができる。
8 9	旅行と交通 【評価②】	日本人旅行者に、有名な観光地について、日本人が持っている情報をふまえて、ある程度詳しく説明することができる。
10 11	食生活	日本人と食事をしているとき、自国と日本の食生活（マナーや食べ物など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。
12 13	言語と文化 【評価③】	日本人を自宅に招待したとき、自国と日本の生活習慣（結婚式や年中行事など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。
14	まとめ	

これで学習目標一覧が完成しました。

■「A 国　○△□日本語学校　成人を対象とした日本語コース」
—自己評価チェックリストを作る—

このコースでは、学習者が自己評価しやすい具体的な活動を示す活動 Can-do と方略 Can-do でリストを作ります。

1. コースの目標に合う Can-do のカテゴリーを考える



「JF スタンダードの木」を見ます。学習目標一覧を作成したときに選んだ 2 つのカテゴリー **⑬ 経験や物語を語る**、**⑯ 講演やプレゼンテーションをする**の Can-do に加えて、それを達成するのに必要な、方略 Can-do のカテゴリーを選びます。

◆活動 Can-do　産出（話す）

⑬ 経験や物語を語る、**⑯ 講演やプレゼンテーションをする**

◆方略 Can-do　産出

㉝ 表現方法を考える、**㉞（表現できないことを）他の方法で補う**、**㉟ 自分の発話をモニターする**

2.「みんなの Can-do サイト」で、該当するカテゴリーとレベルの JF Can-do を選ぶ

上記の 5 つのカテゴリーの Can-do のうち、学習者の現時点のレベルである A2 と、目標とするレベルである B1 の Can-do を選択します。コースの開始時と終了時に自己評価チェックリストを使うため、トピックが限定されていない CEFR Can-do を選びます。表 2-3 は、「みんなの Can-do サイト」で選択した B1 の活動 Can-do と B1.1 の方略 Can-do をエクセルファイルに出力した一覧です。

表 2-3　サイトから出力した活動 Can-do と方略 Can-do の一覧

種別	レベル	種類	言語活動	カテゴリー	Can-do本文（日本語）
CEFR	B1	活動	産出	経験や物語を語る	物語を語ることができる。
CEFR	B1	活動	産出	経験や物語を語る	現実や想像上の出来事を述べることができる。
CEFR	B1	活動	産出	経験や物語を語る	自分の関心事で、馴染みのあるさまざまな話題について、簡単に述べることができる。
CEFR	B1	活動	産出	経験や物語を語る	事柄を直線的に並べていって、比較的流暢に、簡単な語り、記述ができる。
CEFR	B1	活動	産出	経験や物語を語る	自分の感情や反応を記述しながら、経験を詳細に述べることができる。
CEFR	B1	活動	産出	経験や物語を語る	夢や希望、野心を述べることができる。
CEFR	B1	活動	産出	経験や物語を語る	本や映画の筋を順序だてて話し、それに対する自分の考えを述べることができる。
CEFR	B1	活動	産出	経験や物語を語る	予測不能の出来事（例えば事故など）を、順序だてて詳細に述べることができる。
CEFR	B1	活動	産出	講演やプレゼンテーションをする	質問には対応できるが、そのスピードが速い場合は、もう一度繰り返すことを頼むこともある。
CEFR	B1	活動	産出	講演やプレゼンテーションをする	自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話についていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べることができる。
CEFR	B1.1	方略	産出	表現方法を考える	伝えたいことの要点を伝達する仕方を考えることができる。その際、使える言語能力を総動員して、表現のための手段が思い出せる、あるいは見つかる範囲内にメッセージの内容を限定する。
CEFR	B1.1	方略	産出	（表現できないことを）他の方法で補う	母語を学習対象言語の形に変えて使ってみて、相手に確認を求めることができる。
CEFR	B1.1	方略	産出	（表現できないことを）他の方法で補う	伝えたい概念に類似した意味を持つ、簡単な言葉を使い、聞き手にそれを正しい形に「修正」してもらうことができる。
CEFR	B1.1	方略	産出	自分の発話をモニターする	コミュニケーションが失敗したときは、別の方略を用いて出直すことができる。
CEFR	B1.1	方略	産出	自分の発話をモニターする	自分が使った言語形式が正しいかどうか確認することができる。

3. Can-do の一覧から、実際に授業で扱う項目を選択する

学習目標や学習内容と深く関連する Can-do を選びます。選んだ Can-do の記述が難しい場合は、学習者の母語に翻訳したり、簡単な日本語に書きかえたりしましょう。今回は Can-do を書きかえずに、そのまま次のステップに進みます。

4. 選択した Can-do の一覧を自己評価チェックリストのフォーマットに加工する

表 2-3 のように Can-do が並んだリストを、自己評価チェックリストに加工します。自己評価チェックリストには、必要な項目を記入する欄を作ります。

（例）
- コースの名前や期間
- 学習者の名前
- 学習者による自己評価（コース開始時と終了時など、異なる時期に自己評価ができるように複数の欄を作ることがおすすめです。）
- 記入マークの説明

図 2-9 は、作成した自己評価チェックリストの例です。

図 2-9　自己評価チェックリストの例

自己評価チェックリスト

○△□日本語学校

名前：

	A2	初日	最終日	B1	初日	最終日
活動	出来事や活動の要点を短く述べることができる。			自分の関心事で、馴染みのあるさまざまな話題について、簡単に述べることができる。		
	計画、準備、習慣、日課、過去の活動や個人の経験を述べることができる。			事柄を直線的に並べていって、比較的流暢に、簡単な語り、記述ができる。		
	好きか嫌いかを述べることができる。			自分の感情や反応を記述しながら、経験を詳細に述べることができる。		
	事項を列挙して簡単に述べたり、物語ることができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べることができる。			夢や希望、野心を述べることができる。		
	自分の毎日の生活に直接関連のある話題については、リハーサルして、短いプレゼンテーションができる。意見、計画、行動に対して、理由を挙げて、短く述べることができる。			自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話についていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べることができる。		
	話し終えた後、限られた数の簡単な質問に対処することができる。			質問には対応できるが、そのスピードが速い場合は、もう一度繰り返すことを頼むこともある。		
方略	自分のレパートリーの中から適切な表現形を思い出して、使ってみることができる。			伝えたいことの要点を伝達する仕方を考えることができる。使える言語能力を総動員して、表現のための手段が思い出せる、あるいは見つかる範囲内にメッセージの内容を限定する。		
	手持ちの語彙の中から不適切な言葉を使っても、言いたいことをはっきりとさせるためにジェスチャーを使うことができる。			母語を学習対象言語の形に変えて使ってみて、相手に確認を求めることができる。		
				伝えたい概念に類似した意味を持つ、簡単な言葉を使い、聞き手にそれを正しい形に「修正」してもらうことができる。		
				コミュニケーションが失敗したときは、別の方略を用いて出直すことができる。		
				自分が使った言語形式が正しいかどうか確認することができる。		

マーク
◎　自信がある　　○　できる　　△　難しい　　✓　これからがんばりたい

これで自己評価チェックリストが完成しました。

（2）話す力を測るための「評価基準」と「評価シート」を作る

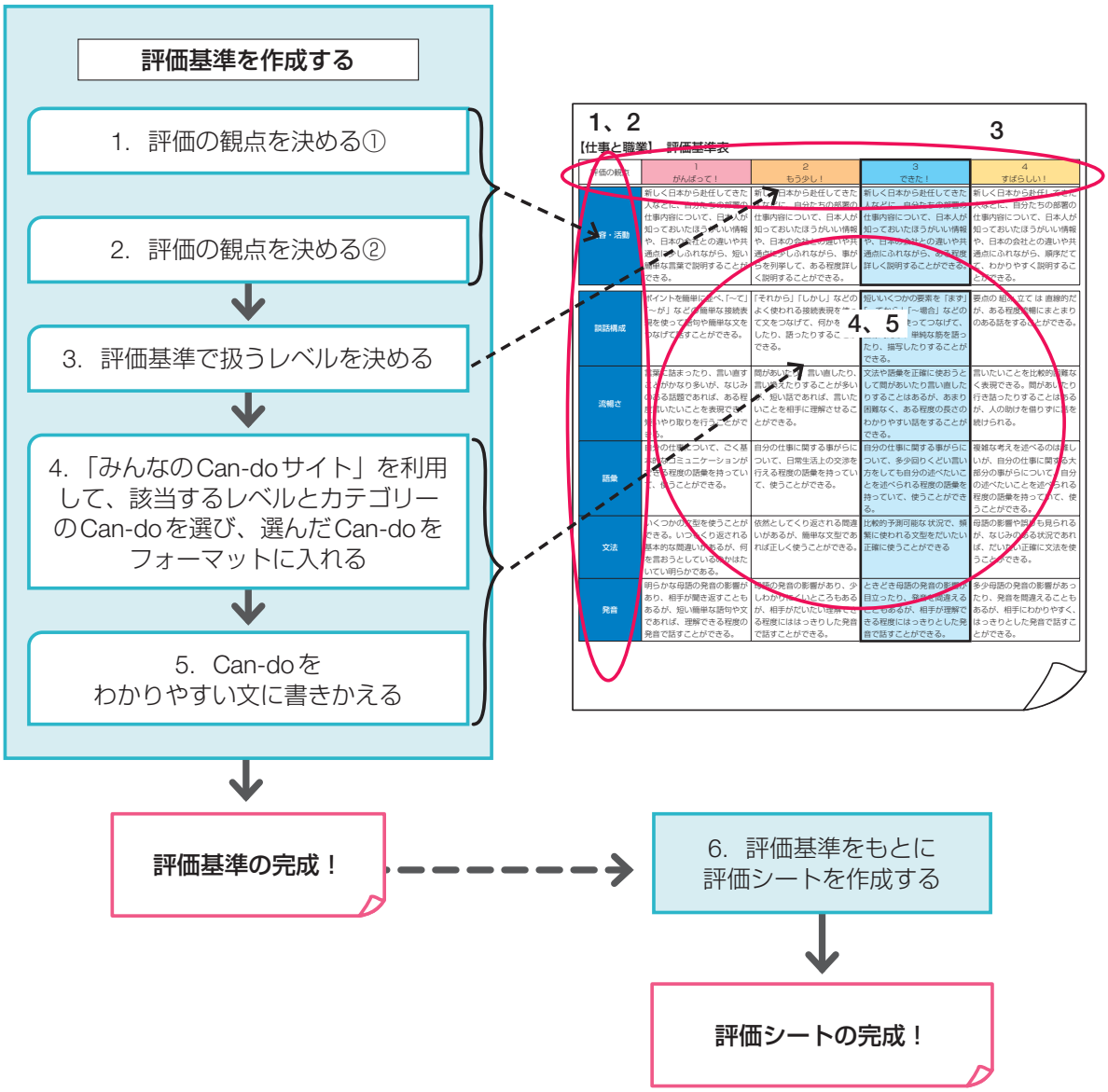
このコースでは、学習する６つのトピックのうち、「仕事と職業」「旅行と交通」「言語と文化」の３つのトピックで口頭発表の評価を行います。ここでは、「仕事と職業」のトピックを例にして、口頭発表の「評価基準」と「評価シート」を作成する流れを見てみましょう。

「仕事と職業」のトピックの学習目標の Can-do は、「新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる」です。目標を達成できたかどうかを評価するために口頭発表を行います。口頭発表は、次のような状況設定で行います。

「あなたが働いている会社に、新しい社員が日本からやって来ました。あなたは、自分の部署の仕事内容を説明することになりました。どのような仕事をどのように進めているのか、できるだけ詳しく説明してください。日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社と違う点や同じ点などにもふれてください。」

この課題を評価する「評価基準」を作成しましょう。作成の流れは図 2-10 のようになります。

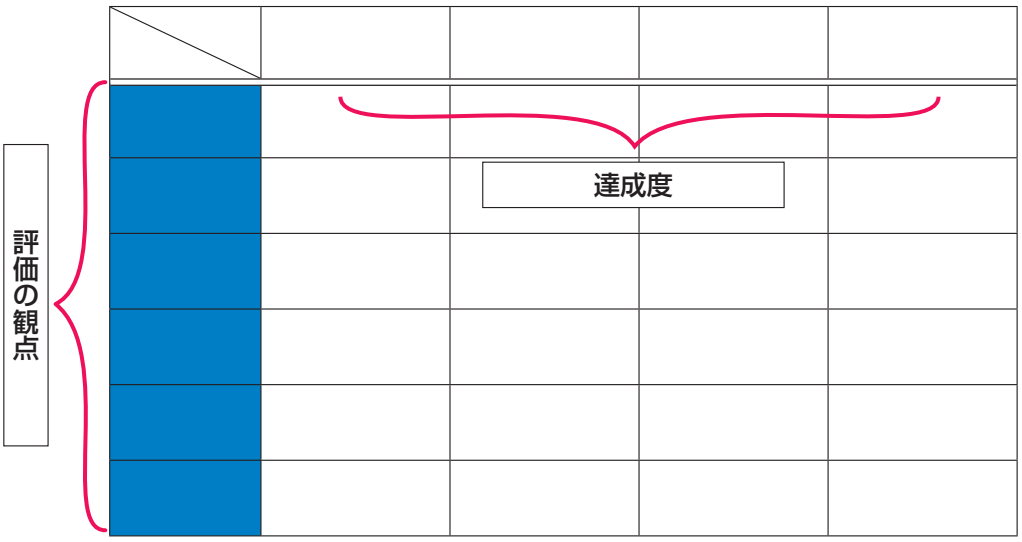
図 2-10 「評価基準」と「評価シート」作成の流れ



■「A 国　○△□日本語学校　成人を対象とした日本語コース」
—評価基準と評価シートを作る—

このコースでは、縦軸に評価の観点、横軸に達成度を配置した以下の表 2-4 のような評価基準フォーマットを使います。

表 2-4　評価基準のフォーマット例



では、評価基準を作成する流れを詳しく見ていきましょう。

1．評価の観点を決める①

まず、学習目標である B1 レベルの産出（話す）の Can-do が、どのぐらい達成できたかを評価する観点を用意します。この観点は、「内容・活動」と名づけ、異文化理解の視点も含めた、課題の達成度を評価します。この観点には、学習目標である B1 レベルの活動 Can-do（MY Can-do、P51 参照）をそのまま利用します。

「仕事と職業」　新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。

「旅行と交通」　日本人旅行者に、有名な観光地について、日本人が持っている情報をふまえて、ある程度詳しく説明することができる。

「言語と文化」　日本人を自宅に招待したとき、自国と日本の生活習慣（結婚式や年中行事など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。

2. 評価の観点を決める②

次に、B1 レベルの産出（話す）の Can-do を達成するために必要な言語能力を評価の観点とします。このコースでは、能力 Can-do の中の以下のようなカテゴリーが重要だと考え、これらを評価の観点として選びました。（P45　図 2-2）

＜能力 Can-do ＞

- 言語構造的能力
  - ㊷ 使用語彙領域
  - ㊸ 語彙の使いこなし
  - ㊹ 文法的正確さ
  - ㊺ 音素の把握
- 語用能力
  - ㊿ 話題の展開
  - 51 一貫性と結束性
  - 52 話しことばの流暢さ

ステップ 1、2 で選んだカテゴリーは、名前が長く難しいものは、適宜わかりやすく書き変えて、評価の観点の欄に記入します。このコースでは、以下のように変更しました。

- 言語構造的能力
  - ㊷ 使用語彙領域 ㊸ 語彙の使いこなし　→　2 つまとめて「語彙」
  - ㊹ 文法的正確さ　→　「文法」
  - ㊺ 音素の把握　→　「発音」

- 語用能力
  - ㊿ 話題の展開　（このまま）
  - 51 一貫性と結束性（このまま）
  - 52 話しことばの流暢さ　→　「流暢さ」

このコースでは、「内容･活動」、「話題の展開」、「一貫性と結束性」、「流暢さ」、「語彙」、「文法」、「発音」の 7 項目を評価の観点とし、表 2-5 の縦軸に配置しました。

表 2-5　評価基準のフォーマット例（評価の観点を記入したもの）

評価の観点				
内容・活動				
話題の展開				
一貫性と結束性				
流暢さ				
語彙				
文法				
発音				

3. 評価基準で扱うレベルを決める

このコースでは、評価基準の達成度を 4 段階に設定します（「4　すばらしい」「3　できた」「2　もう少し！」「1　がんばって」）。このコースの目標レベルである B1 は、4 段階の達成度の「3」に置き、その少し上のレベルを「4」としました。これは、次の目標が見えたほうが、学習者の動機づけにつながるからです。

表 2-6　評価基準のフォーマット例（達成度を記入したもの）

評価の観点	1 がんばって！	2 もう少し！	3 できた！	4 すばらしい！
内容・活動				
話題の展開				
一貫性と結束性				
流暢さ				
語彙				
文法				
発音				

なお、このコースでは、目標レベルである B1 の Can-do と、学習者の現在の熟達度である A2 の Can-do を利用して、評価基準を作成しましたが、学習者の話す力に大きな差がある場合は、A2 から B2 までの Can-do を利用するなど、レベルの幅を検討してください。

4. 「みんなの Can-do サイト」を利用して、該当するレベルとカテゴリーの Can-do を選び、選んだ Can-do をフォーマットに入れる

言語構造的能力の ㊷ **使用語彙領域**、㊸ **語彙の使いこなし**、㊹ **文法的正確さ**、㊺ **音素の把握**と、語用能力の ㊿ **話題の展開**、51 **一貫性と結束性**、52 **話しことばの流暢さ**を各 Can-do のうち、A2 と B1 レベルのものを「みんなの Can-do サイト」から出力し、表 2-6 のフォーマットの縦軸の項目に配置します。

カテゴリーによっては、A2 レベル、B1 レベルが細かいレベル（A2.1、A2.2、B1.1、B1.2）に分かれていないため、2 段階の達成度に Can-do が 1 つしかないこともあります。また、ある 1 つの段階に複数の Can-do があてはまる場合もありますが、この段階では、そのままフォーマットに入れます。

次の表 2-7 は、「みんなの Can-do サイト」から出力した Can-do 一覧の抜粋です。

表 2-7　サイトから出力した Can-do 一覧の抜粋

種別	レベル	種類	言語活動	カテゴリー	Can-do本文（日本語）
CEFR	A2.1	能力	語用能力	一貫性と結束性（ディスコース能力）	“and”「そして」、“but”「しかし」、“because”「～だから」のような簡単な接続表現を用いて語句の間に繋がりをつけることができる。
CEFR	A2.2	能力	語用能力	一貫性と結束性（ディスコース能力）	最も頻繁に出現する接続表現を使って、単純な文をつなげ、物事を語ったり、描写することができる。
CEFR	B1	能力	語用能力	一貫性と結束性（ディスコース能力）	短めの、単純で、バラバラな成分をいろいろ結び合わせて、直線的に並べて、繋がりをつけることができる。
CEFR	A2	能力	言語構造的能力	音素の把握	話の相手から時々、繰り返しを求められることもあり、明らかな外国語訛りが見られるものの、大体の場合、発音は理解できる程度にははっきりとしている。
CEFR	B1	能力	言語構造的能力	音素の把握	時には外国語訛りが目立ったり、発音の間違えもあるが、大体よく理解できるくらいに発音は明瞭である。
CEFR	A2	能力	言語構造的能力	語彙の使いこなし	具体的な日々の要求に関する狭いレパートリーの語を使うことができる。
CEFR	B1	能力	言語構造的能力	語彙の使いこなし	複雑な考えや、非日常的な話題や状況に関して何かを述べようとすると、大きな誤りをすることがあるが、初歩的な語彙は使いこなせる。

表2-8は、表2-7のCan-doをフォーマットに入れた例です。評価の観点の「内容・活動」は、ステップ1で説明したように、「3 できた」の部分に「仕事と職業」トピックの学習目標であるMY Can-doが入ります。

表2-8　サイトから出力したCan-doを評価基準のフォーマットに入れた例

<table>
<tr><th rowspan="2">評価の観点</th><th>1
がんばって！</th><th>2
もう少し！</th><th>3
できた！</th><th>4
すばらしい！</th></tr>
<tr><th colspan="2">A2</th><th colspan="2">B1</th></tr>
<tr><td>内容・活動</td><td></td><td></td><td>新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。</td><td></td></tr>
<tr><td>話題の展開</td><td colspan="2">ポイントを簡単に並べ上げる形で、物事を語ったり事物を記述できる。（A2）</td><td colspan="2">事柄を直線的に並べていって、比較的流暢に、簡単な語りや記述ができる。（B1）</td></tr>
<tr><td>一貫性と結束性</td><td>“and”「そして」、“but”「しかし」、“because”「～だから」のような簡単な接続表現を用いて語句の間に繋がりをつけることができる。（A2.1）</td><td>最も頻繁に出現する接続表現を使って、単純な文をつなげ、物事を語ったり、描写することができる。（A2.2）</td><td colspan="2">短めの、単純で、バラバラな成分をいろいろ結び合わせて、直線的に並べて、繋がりをつけることができる。（B1）</td></tr>
<tr><td>流暢さ</td><td>言葉に詰まったり、話し始めて言い直すことが目立って多いが、馴染みのある話題であれば、余り困難なく言いたいことを言葉に表現でき、短いやり取りを行うことができる。（A2.1）</td><td>話し始めて言い直したり、途中で言い換えたりすることが目立つが、短い発話であれば自分の述べたいことを理解してもらえる。（A2.2）</td><td>ある程度の長さの、理解可能な発話を行うことができるが、制限を受けない自由な発話で比較的長いものになると特に、談話を続けていく時に文法的および語彙的に正確であろうとして間があいたり、発話の修復を行うのが目立つ。（B1.1）</td><td>自分の表現したいことを、比較的容易に表現できる。言語化する際に、間があいたり、「袋小路」に入り込んだりはするものの、他人の助けを借りずに発話を続けることができる。（B1.2）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">語彙</td><td>・基本的なコミュニケーションの要求を満たすことができるだけの語彙を持っている。（A2.1　使用語彙領域）
・生活上の単純な要求に対応できるだけの語彙を持っている。（A2.1　使用語彙領域）</td><td>馴染みのある状況や話題に関して、日常的な生活上の交渉・取引を行うのに充分な語彙を持っている。（A2.2　使用語彙領域）</td><td colspan="2">家族、趣味や 関心、仕事、旅行、時事問題な ど、本人の日常生活に関わる大部分の話題について、多少間接的な表現を使ってでも、自分の述べたいことを述べられるだけの語彙を持っている。（B1　使用語彙領域）</td></tr>
<tr><td colspan="2">具体的な日々の要求に関する狭いレパートリーの語を使うことができる。（A2　語彙の使いこなし）</td><td colspan="2">複雑な考えや、非日常的な話題や状況に関して何かを述べようとすると、大きな誤りをすることがあるが、初歩的な語彙は使いこなせる。（B1　語彙の使いこなし）</td></tr>
<tr><td>文法</td><td colspan="2">いくつかの単純な文法構造を正しく使うことができるが、依然として決まって犯す基本的な間違いがある―例えば、時制を混同したり、性・数・格などの一致を忘れたりする傾向がある。しかし、本人が何を言おうとしているのかはたいていの場合明らかである。（A2）</td><td>比較的予測可能な状況で、頻繁に使われる「繰り返し」やパターンのレパートリーを、割合正確に使うことができる。（B1.1）</td><td>馴染みのある状況では、割合正確にコミュニケーションを行うことができる。多くの場合高いレベルでの駆使能力があるが、母語の影響が明らかである。誤りも見られるが、本人が述べようとしていることは明らかに分かる。（B1.2）</td></tr>
<tr><td>発音</td><td colspan="2">話の相手から時々、繰り返しを求められることもあり、明らかな外国語訛りが見られるものの、大体の場合、発音は理解できる程度にははっきりとしている。（A2）</td><td colspan="2">時には外国語訛りが目立ったり、発音の間違えもあるが、大体よく理解できるくらいに発音は明瞭である。（B1）</td></tr>
</table>

5. Can-do をわかりやすい文に書きかえる

評価基準のフォーマットに入れた Can-do を、学習者にもわかりやすい文に書きかえます。学習者の母語で書いてもいいでしょう。達成できていることを前向きな表現で書くことが大切です。それが学習者の動機づけにつながります。

あるカテゴリーの、ある達成度で、複数の Can-do が当てはまる場合は、目標に照らして、それぞれの Can-do から合う内容を抽出し、まとめます。また、複数の達成度に対して Can-do が 1 つしかない場合は、内容を段階づけして分けることが必要になります。

評価の観点のうち、「内容・活動」については、ステップ 1 と 4 で述べたように、学習目標（ B1 レベルの MY Can-do）になっているので、達成度の「3」はそのままの記述を利用します。達成度の「1」「2」「4」への書きかえについては、**「レベル別特徴一覧」**参考資料 3 などを参考にしてください。

ステップ 4 で作った表 2-8 の中の Can-do を見ると、㊿ **話題の展開**と ㊶ **一貫性と結束性**の Can-do は同じような内容を含んでいるので、最終的に 1 つにまとめて「談話構成」とします。

完成した評価基準の例が、次の図 2-11 です。図 2-11 は、「仕事と職業」トピックの、「新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる」という目標と、それにもとづく学習活動をふまえた内容になっています。

図 2-11　完成した評価基準の例

【仕事と職業】　評価基準表

評価の観点	1 がんばって！	2 もう少し！	3 できた！	4 すばらしい！
内容・活動	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、短い簡単な言葉で説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、事がらを列挙して、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、順序だてて、わかりやすく説明することができる。
談話構成	ポイントを簡単に並べ、「～て」「～が」などの簡単な接続表現を使って語句や簡単な文をつなげて話すことができる。	「それから」「しかし」などのよく使われる接続表現を使って文をつなげて、何かを描写したり、語ったりすることができる。	短いいくつかの要素を「まず」「～てから」「～場合」などの接続表現を使ってつなげて、直線的だが、単純な筋を語ったり、描写したりすることができる。	要点の 組み 立て は 直線的だが、ある程度流暢にまとまりのある話をすることができる。
流暢さ	言葉に詰まったり、言い直すことがかなり多いが、なじみのある話題であれば、ある程度言いたいことを表現でき、短いやり取りを行うことができる。	間があいたり、言い直したり、言い換えたりすることが多いが、短い話であれば、言いたいことを相手に理解させることができる。	文法や語彙を正確に使おうとして間があいたり言い直したりすることはあるが、あまり困難なく、ある程度の長さのわかりやすい話をすることができる。	言いたいことを比較的困難なく表現できる。間があいたり行き詰ったりすることはあるが、人の助けを借りずに話を続けられる。
語彙	自分の仕事について、ごく基本的なコミュニケーションができる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事がらについて、日常生活上の交渉を行える程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事がらについて、多少回りくどい言い方をしても自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	複雑な考えを述べるのは難しいが、自分の仕事に関する大部分の事がらについて、自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。
文法	いくつかの文型を使うことができる。いつもくり返される基本的な間違いがあるが、何を言おうとしているのかはたいてい明らかである。	依然としてくり返される間違いがあるが、簡単な文型であれば正しく使うことができる。	比較的予測可能な 状況で、頻繁に使われる文型をだいたい正確に使うことができる。	母語の影響や誤りも見られるが、なじみのある状況であれば、だいたい正確に文法を使うことができる。
発音	明らかな母語の発音の影響があり、相手が聞き返すこともあるが、短い簡単な語句や文であれば、理解できる程度の発音で話すことができる。	母語の発音の影響があり、少しわかりにくいところもあるが、相手がだいたい理解できる程度にははっきりした発音で話すことができる。	ときどき母語の発音の影響が目立ったり、発音を間違えることもあるが、相手が理解できる程度にはっきりとした発音で話すことができる。	多少母語の発音の影響があったり、発音を間違えることもあるが、相手にわかりやすく、はっきりとした発音で話すことができる。

6. 評価基準をもとに、評価シートを作成する

ステップ 5 で完成した評価基準をもとに、図 2-12 のような評価シートを作成します。このコースでは、教師も発表した学習者も図 2-12 の評価シートを使うことにしました。学習者のレベルによっては、母語ややさしい日本語で書いた発表者用を作ったほうがいいでしょう。

学習者は、自分のスピーチを録音したものを授業後に聞いて、チェックします。教師は、スピーチを聞きながらチェックしてもいいですし、録音したものを聞いてチェックしてもかまいません。同じ評価シートを使って、学習者どうしでピア評価をしてもいいでしょう。

図 2-12　評価基準をもとに作成した評価シートの例

仕事と職業

【目標】
新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。

名前

評価の観点	1 がんばって！	2 もう少し！	3 できた！	4 すばらしい！
内容・活動	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、短い簡単な言葉で説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、事がらを列挙して、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、順序だてて、わかりやすく説明することができる。
談話構成	ポイントを簡単に並べ、「～て」「～が」などの簡単な接続表現を使って語句や簡単な文をつなげて話すことができる。	「それから」「しかし」などのよく使われる接続表現を使って文をつなげて、何かを描写したり、語ったりすることができる。	短いいくつかの要素を「まず」「～てから」「～場合などの接続表現を使ってつなげて、直線的だが、単純な筋を語ったり、描写したりすることができる。	要点の 組み 立て は 直線的だが、ある程度流暢にまとまりのある話をすることができる。
流暢さ	言葉に詰まったり、言い直すことがかなり多いが、なじみのある話題であれば、ある程度言いたいことを表現でき、短いやり取りを行うことができる。	間があいたり、言い直したり、言い換えたりすることが多いが、短い話であれば、言いたいことを相手に理解させることができる。	文法や語彙を正確に使おうとして間があいたり言い直したりすることはあるが、あまり困難なく、ある程度の長さのわかりやすい話をすることができる。	言いたいことを比較的困難なく表現できる。間があいたり行き詰ったりすることはあるが、人の助けを借りずに話を続けられる。
語彙	自分の仕事について、ごく基本的なコミュニケーションができる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事がらについて、日常生活上の交渉を行える程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事がらについて、多少回りくどい言い方をしても自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	複雑な考えを述べるのは難しいが、自分の仕事に関する大部分の事がらについて、自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。
文法	いくつかの文型を使うことができる。いつもくり返される犯す 基本的な 間違い が あ る が、何を言おうとしているのかはたいてい明らかである。	依然としてくり返される間違いがあるが、簡単な文型であれば正しく使うことができる。	比較的予測可能な 状況で、頻繁に使われる文型をだいたい正確に使うことができる。	母語の影響も見られるが、なじみのある状況であれば、だいたい正確に文法を使うことができる。
発音	明らかな母語の発音の影響があり、相手が聞き返すこともあるが、短い簡単な語句や文であれば、理解できる程度の発音で話すことができる。	母語の発音の影響があり、少しわかりにくいところもあるが、相手がだいたい理解できる程度にははっきりした発音で話すことができる。	ときどき母語の発音の影響が目立ったり、発音を間違えることもあるが、相手に理解される程度にはっきりとした発音で話すことができる。	母語の 発音の 影響が あ っ た り、発音を間違えることもあるが、相手にわかりやすく、はっきりとした発音で話すことができる。

よかったところ

これからがんばること

以上、学習目標、自己評価チェックリスト、評価基準、評価シートを作成する過程を紹介しました。評価基準を作成する際には、CEFR で提供している共通参照レベルの**「話し言葉の質的側面」**参考資料 5 も参考にできます。

書く力を測るための評価基準や評価シートを作成する場合は、「1.5　ポートフォリオを理解する」で紹介している作文の評価基準や評価シートを参考にしてください。CEFR が提供している「書き言葉の質的側面」は、『ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）から学ぶ英語教育』（2013 年 キース・モロウ編 研究社）の pp.200-201 に掲載されています。